

正智深谷高等学校特別コラム

# Mind Charging

Since 2020

第312回

村岡桃佳

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和4年6月21日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

## こんなときだからこそ

村岡 桃佳は、日本のチェアスキー選手。早稲田大学卒。トヨタ自動車所属。平昌パラリンピック、北京パラリンピック金メダリスト。マネジメント契約先はスポーツビズ。

本校の卒業生であり、深谷市出身。北京パラリンピックでは日本選手団の主将を務め、金メダル3つ、銀メダル1つを獲得する活躍。

## Column

今回の言葉は、村岡選手と彼女の師匠的存在である森井大輝選手にまつわるエピソードの中で生まれたものだそうです。3月初旬から開催した北京パラリンピックですが、その時期はロシアとウクライナの軍事的な動きが開始された翌週のことでした。その関係で、ロシアとベラルーシの選手のエントリーが拒否されるという本当に悲しいニュースもある中で、日本選手団の主将を務めることとなった村岡選手には大きな不安があったはず。そんな時、自分が信頼している人が寄り添って一緒に考えてくれたことで“勇氣”を持つことができたのだと思います。

みなさんには大切な家族や仲間がいます。みなさんの自己実現の舞台として全力でサポートをする正智深谷高校があります。少し大袈裟な言い方になるのかもしれませんが、『だから恐れることはなにもないよ！』と伝えたいです。しかし、困った時に気軽に相談をしてみるなど、仲間に“寄りかかる”ということができないことも多いと思います。それはなぜなのかと理由を考えると、一番初めに思い浮かんだことは、『みんな辛いんだから自分だけ弱音を吐くわけにはいかない』という感情です。このことが思い浮かんだ時に、今回の“こんなときだからこそ”という言葉がとても心に響きました。現在、私たちは2年以上も不安だらけの状況下で毎日を過ごしています。世界中の人々が疲弊している中で、歯を食いしばって我慢しながら進んでいくことも重要ですが、『常に自分のベストを追求する』という前提はありますが、こんな時だからこそ“お互い様”という精神に立ち返るいい機会なのではないでしょうか。自力で乗り越えられれば間違いなく強くなります。でも、誰かに寄りかかることがそんなに悪いことでしょうか。信頼できる仲間が寄りかかってきたら、大変かもしれませんが仲間を助けられる喜びも同じように感じられるのではないのでしょうか。そして、助けてくれる仲間のパワーを自分のパワーにすることで、自分自身が2倍強くなったと感じ、自信を持つことができるのではないのでしょうか。弱っているはずの自分のパワーが仲間に幸せを与えられるのではないのでしょうか。村岡選手も森井選手や他の日本選手団の仲間を自分のパワーに加えて挑むことが、あの輝かしい成績を収めることができた大きな要因になっていると思います。こんな時だからこそ、自分と自分の仲間を信じて挑戦してみませんか？『こんな時だからこそ』という言葉がポジティブな意味で飛びかう正智深谷高校でありたいものですね。